

Interview

意識調査によって明らかになるのは大学生・大学院生全体の平均的なイメージです。しかし、彼らの生の声により、さらにリアルな若者像を捉えることができます。キャンパスライフについて何を考えているのか。職業選択についてどんな意識をもっているのか。未来に対してどんな夢を抱いているのか。東京都内の大学生・大学院生3人にインタビューしました。

発展途上国で強いカルチャーショックを受けてみたい

神田若菜さん (国際基督教大学教養学部1年生)

日本は便利すぎて怖くなる

ICU (国際基督教大学) を選んだのはどのような理由からですか。

神田 私は海外での生活が長くて、日本に3年間しか住んだことがありません。それで、最初は日本の大学には馴染めないかもしれないと思って、帰国生の多いICUを選んだところがありました。しかし、調べているうちにICUでは専門を2つもつことができると知り、以前から大学でも幅広く勉強したいと思っていたので、最終的にはそこに魅力を感じました。

生まれてから今までどんな国で暮らしてきたのですか。

神田 全て父の転勤によるものなのですが、生まれてすぐイタリアに5年間住んで、その後イギリスに2年間、小学校2年生から4年生の終わりまで日本に3年間、次にアメリカのシアトルに5年間いて、またイギリスに3年間住み、今年の夏に8年ぶりに日本に帰ってきました。

カルチャーショックというのはありませんでしたか。

神田 英語の社会学の授業で、討論すべきときにみんな手を挙げないし、英語の授業のはずなのに日本語で話しかけてくる人もいたりで、あれ一って、思うことはありました。また、授業には関係ないことですが、初めて飲み会というのを経験して、新入生の男の子たちが先輩たちに、「飲め」とか言われているのを見て、いつもと違うテンションに不思議な気持ちになりました。

日本の18歳と海外の18歳を比べて、どんな違いを感じますか。

神田 アメリカの18歳は、見た目もそうなのですが、精神的にも落ち着いているというか、大人びているように思います。アメリカは自由が多い分、個人の責任も重いので、小さい頃から両親に鍛えられている感じです。

一人暮らしをしたいなと思いませんか。

神田 私の母は大学生のときに一人暮らしをして、失敗を繰り返しながら、いろいろできるようになったと言っています。だから、「あなたも早く一人暮らしをしなさいね」と勧められますし、そういう気持ちは強いです。

暮らす場所としては、日本と海外とどちらがいいですか。

神田 日本はすごく便利で、豊かで素晴らしい国だと思うのですが、私に





インタビュー

はちょっと便利すぎて、時々怖くなることがあります。イギリスはとてもサービスが悪くて、例えばインターネットが使えなくなってしまったときに、直すまでに1か月くらいかかるのが普通です。私はそういう不便さに慣れているので、日本のように24時間営業のコンビニが当たり前にあるような環境は、良くないと思うところもあります。

いろいろな国で育ったわけですが、自分は何人だと思えますか。

神田 国籍上は日本人ですけど、やっぱり日本にずっと暮らしている日本人と比べると違っているし、それで中学生のときは苦しかったです。といっても、アメリカ人じゃないし、しいて言えば、いままで滞在した国の全部の特徴が入っているのかなと思います。中途半端な存在だというのはずっと思っています。答えを出したいけど出せないというのが本当のところかな。

海外での経験から、日本に対する見方が変わった部分はありますか。

神田 日本は閉鎖的だ、協調性はあるけど自分の意思がない、というような話を周りから聞いて、日本人であるメリットなんてないじゃないかと思っていました。でも、高校の最後の年に美術を選択して、そこで日本の美術に触れて、こんなに美しいものがあるのだとわかったときに、私は表面的にしか日本のことを理解していなかったのだと気づきました。愛国心が生まれたとまでは言えませんが、苦手とか嫌いといった気持ちは消えました。

自律した生き方を学ぶのが大学

まだ一年生ですが、専門的にはどんな勉強をしたいと思っていますか。

神田 ずっとカウンセラーになりたいと思っていたのですが、大学ではいろんな授業を取る機会があるので、心理学以外の、例えばコンサルティングのような勉強もして、幅広いものの考え方を身につけたいと思っています。

カウンセラーになりたいと思ったきっかけは、何ですか。

神田 中学校の時に精神的に疲れちゃった時期があって、両親にも話せないし、友だちにも話せない、でも誰かに話を聞いてもらいたいというのがあって、学校のカウンセラーに相談にいきました。そこで言葉を交わしたら、すごく気持ちが楽になって、話をするだけでこんなに安心できるものかと感動し、そのカウンセラーの先生のこととても尊敬しました。カウンセリングに興味をもったのは、それがきっかけです。

大学とは何をするとところだと思っていますか。

神田 高校時代までは主に両親や周りの人から勧められたことに従って行動してきましたが、大学では、勉強に限らず、サークルでもボランティア活動でも何でもいいのですが、自分で選択したことに従って行動したいと思っています。大学生は責任も大きくなるし、世間的にもう大人として見られますから、それに見合うような自律した生き方を学びたいと思います。

いま関心をもっているのは何ですか。

神田 大学の間はボランティア活動に力を入れたいですね。日本では高校生がボランティアをする機会は少ないじゃないですか。でも、アメリカだと、大学に入るまでに何百時間とボランティアをする人たちがいます。私の学校でも150時間が必修でした。自分のためではなく、他人のために何ができるかを考える、そういう活動を通じて、社会の物事を客観的に見る目が養われていくような気がします。

発展途上国への関心はありますか。

神田 ICUには発展途上国の留学生もいるので、その人たちと交流する機会もあると思います。今まで先進国にしかいったことがないので、その人たちの国にいて、強いカルチャーショックを受けてみたいなのというのがあります。

いまから十年後のことを想像することはありますか。

神田 もしかしたら十年後にはグローバル化が突然止まっていて、自国の文化を大切にしようという意思が強い人が多くなっているかもしれないですね。時代によって自分の存在自体も大きく変わる可能性があると思うので、自分が十年後どうなっているかというのは、全く思いつかないです。

個性的でありたいという気持ちが強い 岩崎陽平さん (東京医科歯科大学医学部医学科3年生)

医学だけではもの足りない

東京大学の薬学部を卒業されたそうですね。

岩崎 もともとは脳の研究をしたかったです。どうして意識というものが生じるのか、そういう哲学的な問題に関心をもってまして、大学4年生のときには、ラットの神経細胞の標本を作って、その発火の様子を見る研究をしていました。

どうして医学部に移られたのですか。

岩崎 父の死が影響していると思いますけど、薬学によって医学に貢献することよりも、人と接して、直接治すというか、治せるかどうかわからなくても、そういう努力をしたいと思ったからです。

将来のイメージはわかりますか。

岩崎 バリバリ活躍できていると、いいなと思います。周囲から信頼されるような確かな技術を身につけたいです。一生懸命治療にあたった患者さんが見事に回復して、元気に退院していく姿を見たいという願望があります。

将来不安なことはありますか。

岩崎 病院で患者さんから訴えられたらどうしよう、なんて思うことはあります。ミスのできない仕事ですから、授業でもそういうことは話題になります。

医学部だけでなく、東京大学の情報学環の研究生でもあるそうですね。

岩崎 メディアとしてのインターネットの可能性に関心があって、自分でもブログを書いています。情報学環でそういうことを学んでみたいと思いました。情報学環は学際的な場なので、いろいろな違った分野の専門の人たちがいておもしろいです。医学部の人とだけ付き合っていると、なんか偏っている感じがして。

バリバリに医学一筋でやっていこうとは思わないのですか。

岩崎 一つのことに忙殺されるよりも、いろいろな広い分野のこともやっていきたいのだと思います。多様なことに関心があるので、もし「頭の中の図書館」みたいなものがあるとしたら、その一つひとつの分野の本を充実させていく感じでしょうか。

海外に行かれることもあるのですか。

岩崎 海外旅行は今までに2回行きました。4年前にヨーロッパ、次の年にシンガポールに行きました。留学も、機会があればしてみたいです。

いまの大学生は平凡でいいという人と、がんばりたいという人と分かれているようですが。

岩崎 確かに二極化しているように思います。平凡でいいというグループの人は、運動とか、趣味とか、部活に熱心で、学業はそこそこでいいという感じですね。僕は編入組ですから、求められるものが高くて、必然的にがんばるほうのグループに入っていますけど。

身近に、問題意識をもってがんばっている人は多いですか。

岩崎 そうですね、どちらかというと、普通に卒業して、普通に就職して働けばいいという堅実志向の人が多いです。だから、たまに、科学の最前線に立ちたいというような、新しい物事に積極的に挑戦する人に会うとうれしくなります。

自分の将来をどうしていきたいですか。

岩崎 人とは違う存在でありたい、個性的でありたいという気持ちが強いので、自分の信じる道を進んでいきたいと思っています。

Interview





職場の人々の人柄に惹かれて就職を決めました

元吉麻菜さん(相模女子大学人間社会学部4年)

どんなことも、自分なりに精一杯やりたい

大学では何を専攻されていたのですか。

元吉 私の所属学科は、心理・社会・情報の3本柱で学べるのですが、学年が上がっていくに連れて、専攻を絞っていきます。わたしは最初、心理を選択したのですが、心理よりも社会のほうに興味をもつようになって、社会のゼミに入りました。卒論のテーマは電子マネーです。

大学生生活の4年間は、長かったですか、短かったですか。

元吉 高校時代はびっしりと勉強していたので長く感じましたが、大学は休みも多く、あまり時間に縛られることもなく自由に過ごすことができ、短く感じました。

卒業後はどういう仕事に就かれるのですか。

元吉 デコカーといって、軽自動車の色を変えたり、内装を変えたりして、お客様にオリジナルの車を提供する会社の営業です。

どんな理由から、その仕事を選んだのですか。

元吉 職場の人たちの人柄に惹かれました。大手ではないのですが、地域の人々との関わりを大切にされていて、とても温かい感じがして、わたしもこんな会社で働けたら幸せだなと思って。

働き始めるのは楽しみですか。

元吉 働くことはとても楽しみなのですが、車の仕事は大きなお金を扱うことが多いので、そういう金額を動かすことへの不安はありますね。

営業成績を上げるための競争などには、燃えるタイプですか。

元吉 トップに行く先輩社員を見習いたいというのはありますが、あまり勝負事には燃えないですね。「がんばれば負けてもいい」と思うたちなので、自分なりに精一杯やろうと思っています。

結婚や子どものことはどう考えていますか。

元吉 就職して1、2年したら結婚したいと思っていますが、子どもは30歳手前でいいかな、と思います。しばらくは2人きりの時間を過ごしたいのです。そういう時間がないと将来うまくいかないような気がするのです。

就職して1、2年で結婚したとしたら、仕事は続けたいですか。

元吉 生活資金を貯めたいと思っているので、続けたいですね。赤ちゃんが生まれたら、パートナーや親と相談して、どうするか決めるとします。

夫婦間での家事や育児の分担についてはどう思いますか。

元吉 やってくれる分にはすごく嬉しいですが、私は家事や育児は苦にならないので、基本は私がやりたいと思っています。パートナーには仕事をがんばってもらいたいです。私ひとりでは経済面では絶対支えられないと思いますし。

将来、どんな人間になりたいですか。

元吉 私は母のことを尊敬しています。母はとても大らかで、私がどんな態度をとっても、いきなり怒ったりはせず、自ら反省できるように気持ちを整理する時間をくれます。自分も親になったら、母のようにになりたいなと思っています。

